

第1章 活動概要

1-1 活動の背景

...生きた地域の財産を未来へ継承するために...

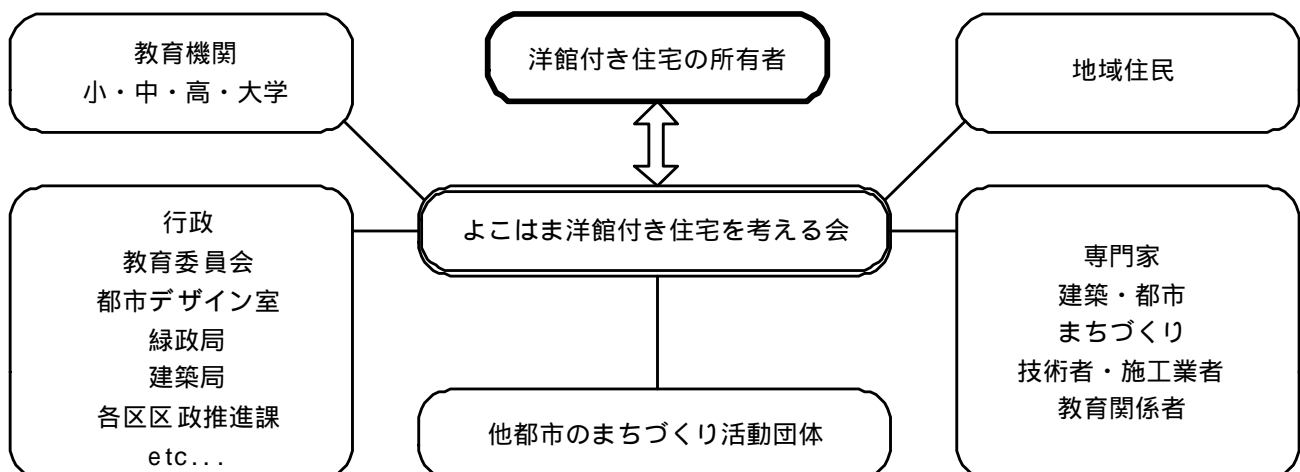
横浜市の中心及び郊外地域は明治以降に大きく発展を遂げた街である。中でも旧中心市街地である関内地域とそれに隣接する山手地区は、開港場として多様な歴史的背景を持ち、日本の近代史上でも重要な地域であるといえる。それ故、この地域においては、行政・市民が一体となって歴史を活かした街づくりの活動に古くから取り組んでおり、多くの近代遺産が保存活用されている。

一方、横浜市の中心市街地を囲む郊外部に目を向けると、横浜や東京の近代化を支えた人々が居住していた住宅群が多く点在している。大正～昭和初期に日本経済の発展と共に、中・上流階級の為の居住地または別宅地として開発された住宅地である。戦火を生き延び、バブル経済の急激な変化にさらされながら、今も尚、横浜らしい緑豊かでモダンな景観を維持している地域も少なくない。個々の住宅に目を向けると、玄関脇に一間の洋館を付属した住宅が多くある。材料・作りが大変良質であり、家としての格式も高く、よくメンテナンスされ、親子3代に渡って住み続けられている。また、150～200坪という敷地規模の宅地が多く、大きく育った庭木が住宅地景観に潤いを与え続けている。戦後の住宅が次々と姿を消していく中で、70～80年も住み続けられているこれ

らの住宅は、省資源化を推進する社会的側面から見ても、これから我々が住まいづくりを進める上での良い手本となる要素を数多く持っている。

当会はこの様な横浜市域に残る洋館付きの近代住宅とその周辺環境に着目し、保存支援・環境維持の為の活動を開始した。ところが、活動開始後まもなく、この分野においては、街づくり行政・文化財行政の方面でのサポートがほとんど行き届いていないという現状に直面する事となった。文化財行政の対象となるためには、学術的価値の証明が不可欠であるが、横浜の郊外の住宅では古民家（農家）や一部の大豪邸を除いてはほとんど未調査であると言っても過言ではない。個々の住戸の価値のみならず、洋館付き住宅の群としての歴史的景観の価値を正しく評価し、保存・環境維持に向けて所有者をサポートして行くには、現在の相対的評価を軸とする建築史界や文化財行政の体制では限界があると言わざるを得ない。洋館付き住宅やその周囲の住宅地環境を「生きた地域の財産」として未来へ継承してゆくためには、市民レベルの地域活動によるサポートが重要である。また、建物の老朽化や周辺環境の変化が進む中、建物の所有者が「住み続けたい」という気持ちを持ち続けられる様な啓蒙活動も欠かせない。保全・改修の為の具体的な情報や技術の提供も必要である。

当会の会員は、大多数が横浜市民であり、この問題を自分達の身近な問題として捉え、活動に取り組んでいる。



1-2 活動の経緯と目的

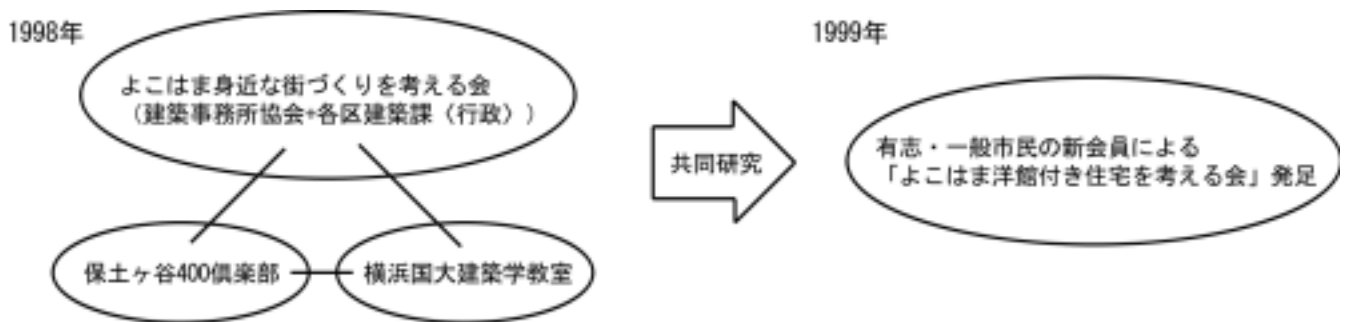
…調査からミニ博物館へ…

1998年、建築事務所協会と行政各区の建築課が共同で開設した「よこはま身近な街づくりを考える会」によって、市内全域の目視調査が行われた。

同年、保土ヶ谷区の街づくり団体「保土ヶ谷400倶楽部」によって、鶴見・神奈川・保土ヶ谷区の洋館付き住宅のヒアリング調査が行われた。（この調査はH&C財団「第6回住まいとコミュニティづくり活動助成報告書」の中で、報告がなされている。

また、この2つの活動と連携して、横浜国立大学建築学教室（指導教官：大月敏雄）による研究論文（修士論文：渡辺淳一氏）が作成された。

以上の活動の中から有志によって結成されたのが「よこはま洋館付き住宅を考える会」の始まりである。前記のH&C財団の報告書中でも触れた空き家になった洋館付き住宅（保土ヶ谷区）を活用しての「ミニ博物館」の展示運営が会の当初の主な活動であった。



会のこれまでの活動

●1999年

- [4月] 洋館付き住宅に関心をもついくつかの市民団体や横浜国立大学(建築計画研究室)の有志による1年間の活動を経て、「よこはま洋館付き住宅を考える会」発足。
- [5月～10月] 「長崎邸」(横浜市保土ヶ谷区)における資料展示を実施。
- [7月～11月] 横浜市鶴見区・神奈川区・磯子区で「現地見学会」を開催(全3回)。
- [9月～12月] 講座「文化住宅を考える」(於:横浜市保土ヶ谷区)を開催(全5回)。

●2000年

- [3月] 「市民活動フェア」(於:かながわ県民活動サポートセンター)に参加し、講演会を開催。
- [4月] 「山手フォーラム」(於:山手234番館)に参加し、展示会を開催。
- [7月～11月] 横浜市鶴見区・神奈川区・西区・磯子区で「現地見学会」を開催(全4回)。
- [10月～12月] 滋賀県近江八幡市・和歌山県海南市・群馬県前橋市・千葉県市川市で、まちづくりNPOとの交流会を開催(全4回)。

●2001年

- [2月] 各地のまちづくりNPOの協力を得て、シンポジウム「ひと・いえ・まち遊学フォーラム」(於:神奈川地区センター)を開催。
- [3月] 「市民活動フェア」(於:かながわ県民活動サポートセンター)に参加し、講演会を開催。
関東学院大学黒田研究室と協働で、K邸(磯子区)改修工事に向けての実測調査を実施。
- [4月] 「山手フォーラム」(於:山手234番館)に参加し、展示会を開催。
- [6月] 東京都文京区で、まちづくりNPOとの交流会を開催。
- [8月] K邸(磯子区)において、「space-jack!」展(会場:横浜美術館、ヨコハマポर्टサイドギャラリー)のために来日中の現代美術アーティストとの交流会を開催。

●2002年

- [1月～5月] 洋館付き住宅の悉皆調査を、横浜市神奈川区・鶴見区・保土ヶ谷区・中区・西区・磯子区において実施。
- [6月～12月] 各区見学会を公開実施。

これらの活動と並行して、居住者の支援や“昭和の暮らし体験学習プログラム”の開発を実施しています。

◎助成実績

- ・文部省「生涯学習分野のNPOの連携によるまちづくり支援事業」
- ・横浜市「横浜市市民活動推進助成」
- ・ハウジングアンドコミュニティ財団「住まいとコミュニティづくり活動助成」
- ・大成建設「公益信託大成建設自然・歴史環境基金」など